

## 令和3年度まち・ひと・しごと戦略茶話会要旨

- 日時：令和3年7月30日（金）14時～16時30分
- 場所：サンライフ甲西2階大ホール
- 参加：市長、委員16名

事務局) それでは、皆さんこんにちは。定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。本日はお忙しい中、またお暑い中「令和3年のまち・ひと・しごと戦略茶話会」にご参加いただきまして誠にありがとうございます。開会にあたりまして、湖南省生田市長よりご挨拶を申し上げます。

生田市長) 本日はお忙しい中、まち・ひと・しごと戦略茶話会の事業評価委員としてお引き受けいただき、まことにありがとうございます。令和3年度のまち・ひと・しごと戦略茶話会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。湖南省では、今後の予測として、2060年には、現在の総人口の約29%減少することが見込まれております。人口減少対策として、まち・ひと・しごとの3つのプランに基づく、7つの政策パッケージとして展開する、第2期きらめき・ときめき元気創生総合戦略を、令和3年4月に策定しております。この戦略茶話会につきましては、主に総合戦略事業の取組や成果、今後の施策展開などを踏まえ、事業評価をしていただくことを目的に、皆さんにお集まりいただいたわけでございます。

また今回の戦略茶話会につきましては、事業評価会として4回目となるわけでございますが、今年度はそれぞれの分野に特化したグループ分けを行うことで、他のまちにはない強みや魅力を、より専門的な視点から意見、感想を引き出したいと考え、3本の柱、経済・産業の柱、福祉・教育の柱、まちづくりの柱で構成いたしました。また、より実態に即したまちづくりの実現が大切であることから、各界でご活躍されてる皆さんから、こんな取組があったらもっと良くなる、私の周りの人たちはこんなことで困っているなど、日頃感じておられることを率直に申し上げていただき、我々行政の視点をより広げていただければと考えております。今後の湖南省の発展につなげていくため、実りある会議にしていきたいと考えておりますので、皆さん忌憚のないご意見をお願いし、冒頭に当たりましての私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

事務局) 生田市長におきましては、他の公務が重なってございますので、ここで退席をさせていただきます。それでは申し遅れましたが、私、地域創生推進課長の職員Eでございます。本日進行させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。続きまして、この戦略茶話会の本日の進め方について簡単にご説明をさせていただきます。お手元の次第をご覧くださいと思います。この度の茶話会につきましては、市長の挨拶でもございましたよう

に、各界の代表者の皆さんが感じる様々な湖南省らしさ、他のまちにはない強みや魅力をまちづくりにどう活かしていくかをテーマに進めて参ります。

本日のスケジュールといたしましては、事務局より地方創生の取組に関して全体の説明をさせていただいたあと、第一部としまして、アイスブレイクで自己紹介を皆さんにさせていただきたいと思っております。自己紹介はプロフィールシートをもとにお仕事やどのような情報を発信されてるのか、また市の情報発信についてどのように思われているか、こういったご意見をいただければなと考えています。そのほか地方創生に関する取組についてご感想がございましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

続きまして第二部では、グループでの意見交換を行いたいと思っております。3つのグループに分かれていて、1つ目は経済・産業に関するグループ、それと福祉・教育に関するグループ、最後にまちづくりに関するグループ。それぞれグループからの視点を活かして、湖南省の強みや弱みを抽出していただき、湖南省らしいまちづくりに関する提案までお願いできればと考えております。グループの意見交換では、市の職員が進行して参りますので、何かご質問等あれば、随時ご確認ください。

最後に第三部となりまして、みらい公園湖南省にあります「ここぴあ」と「HAT」についてご意見をいただきたいと思います。この施設については少なからずこういった施設かということをご存知の方も多と思われると思います。いまの利用状況を見ますと、振るわない状況がございます。こういったところを何とかしたいという思いの中から、様々な分野の方がお越しをいただいているこの場で、そういったところのご意見を伺いたいと考えてございます。

そのあと、事前にお渡しをしております、きらめき・ときめき元気創生総合戦略であります、7つの政策評価パッケージシートの内容や事業につきまして、お気づきの点がございましたら、グループに関わらずお聞かせをいただけたらと考えてございます。それでは次第の3番目、地方創生の取組について担当者からご説明をさせていただきます。

事務局) 皆さま本日はありがとうございます。地域創生推進課の職員Fでございます。私の方から地方創生の取組についてというところでご説明させていただきます。地方創生の取組についてという30ページほどの表でホッチキス止めしたものでございます。では2ページ目でございますが、まずは総合戦略の概要としまして、本市の総合戦略につきましては、第二期がスタートしておりまして、今年度からスタートということになっております。事前に配布させていただきました第二次湖南省総合計画後期基本計画の冊子に、第7章の重点プロジェクトに位置付けられているものでございます。この策定の背景としましては、「出生率の低下による人口減少に歯止めをかける」、「東京圏への人口の過度な集中の是正」を目的に国の方で、まち・ひと・しごと創生法というものが制定をされております。こちらの趣旨につきましては、こちらに書いてある通りで少し省略させていただきますが、本市の位置付けとしましては、本市の自主性、主体性を発揮しながら、施策を総合的かつ計画的に実施

するというものでございます。

3 ページ目でございます。湖南省の人口についてご説明をさせていただきます。2015 年の国勢調査人口を推計したものということになっております。そのままの状況で進む場合、2060 年こちら 38,000 人と書いておりますが、2015 年から約 1.6 万人の減少になり、この後ご説明させていただきます総合戦略の政策効果によりまして、2060 年約 7,400 人の減少に止めていこうというものでございます。

4 ページ目でございます。取組と施策効果の考え方としまして、急激な人口減少、少子化進展に歯止めをかけるとしまして、自然動態と社会動態への働きかけとして、自然動態というのは出生と死亡の差、社会動態というのは、転入転出の差になりますが、こちらの働きかけとして、強みのある産業の振興でありますとか、新産業の創出、子育て支援や移住定住の促進を進めていくということです。そこでの目指す政策効果につきましては、合計特殊出生率を、2060 年に国民の希望出生率の 1.8 まで引き上げていくというものでございます。直近で湖南省の現状申し上げますと、2019 年で、合計特殊出生率は 1.35 になっております。県におきましては、1.7、国におきましては 1.36 ということで、湖南省の合計特殊出生率は、全国平均を下回っています。

参考に出生数ですが、最近の報道でございました通り、全国ベースで過去最小の 84 万人になっておりまして、2021 年には 80 万人をきると予想をされているところでございます。この課題としましては、女性の仕事と婚活出産子育ての両立が難しい状況になっているということです。それと二つ目の政策効果につきましては、2025 年には社会動態、転入転出の差を均衡状態に押し上げていきたいということです。直近でいきますと、2020 年で、転出の方が上回っておりまして、208 人転出の方が多いという状況でございます。

5 ページです。過去の人口推移、まずは総人口の方ですが、外国人を含んだ総人口推移としましては、住民基本台帳ベースでは、2006 年がピークで減少傾向になっておりますが、ここ 2018 年からは増加傾向にありました。ただ最近の住民基本台帳人口を確認しますと、54,867 人と過去最低の人口となっております。参考に 2020 年の国勢調査、皆さんもご回答いただけたかと思われませんが、その中で、滋賀県全体では 0.09%人口が増えております。全国ベースが 0.7%減ですが、湖南省におきましては、0.37%の増で人口は増えております。

次のページお願いします。こちらの方、先ほど総人口でしたが、日本人と外国人で見た時の人口の推移でございます。まず日本人は、5 年で 915 人減っております。さらに直近でいきますと 51,458 人ということで、311 人減っておりますので、1,200 人程度減少しております。一方、総人口が維持できていますのは外国人人口が増えているというところで、5 年で 1203 人増加していたという結果となっております。ただここ最近につきましてはピークから 107 人減っているというところで、コロナの影響があると考えております。

7 ページ目です。国籍別人口につきましては、上位ブラジル、ベトナム、ペルーといったところが多くなっておりますが、県内の外国人人口比率につきましては、湖南省では約 6% となってまして、断トツで高い比率になっております。

続きまして参考に8ページ目でございますが、通勤通学の移動というところで、どの自治体に、移動されているのかということです。上位3市は近隣の甲賀、栗東、草津になっております。転入出地域別人口の移動につきましては、甲賀市が一番移動が多いという結果になっています。

続きまして9ページ目ですけれども、総合戦略の方向性ということで、3つのプランと目標指標というのを掲げております。まず、3つのプランです。働く場の創出プラン、ひとへの投資プラン、まちづくりプランで、まず働く場の創出プランにつきましては、安定した雇用の創出としております。

ひとへの投資プランにつきましては移住定住促進や、関係人口の創出といいまして「関係人口」がキーワードですが、市民ではなく、観光客でもない方々が市のまちづくりに関わっていただける方で、昨今注目を受けているところではございます。また基本的方向3というところで、若い世代の結婚出産、子育ての希望を叶えるということでございます。

3つ目のまちづくりプランにつきましては、時代にあった地域づくりや、誰もが活躍できる社会をつくるということでございます。

10ページ目です。こちらの方から、第一期総合戦略の取組でありますとか、今年度からスタートしているような取組のご紹介でございます。二本立てというところで、産業振興・働く場の確保と、市民主体のまちづくり・移住定住促進を進めているところでございます。産業振興・働く場の確保につきましては、農福連携であると人材確保、あと観光の分野に積極的に取り組んでいます。市民主体のまちづくり・移住定住の促進につきましては、まちづくり協議会を中心に地域主体のまちづくりや、今年度からスタートしておりますSDGsの推進ということで、エネルギー・若者まちづくりの事業を展開します。それと移住定住の促進につきましては、地域おこし協力隊のことでありますがローカルベンチャー事業や空き家の活用、さらには健康寿命の延伸のプロジェクトといった健康の取組も同時並行で実施しているところでございます。

続いてイメージを掴んでいただくためにご説明させていただきますので、13ページ目をご覧ください。まず、観光の方で、都市近郊のほっとするホットな観光地・こなんというところ。十二坊温泉ゆららを地域の核としまして、点在する地域資源をアプリや動画等を活用し、一元化やネットワーク化をすることで観光入込客数や滞在時間、消費の増加を図るというものでございます。

続きまして15ページ目です。こちらは農福連携の取組で、この後第三部でご意見を申し上げますが、みらい公園湖南を核としまして、高齢者や障がい者が参画する農福連携を軸にした付加価値の高い農業を進めていくというところで、チャレンジファームや、こなんイモ・夢づくり協議会のサツマイモによるエネルギー事業の取組や、龍谷大学さんの農学部と特産品の開発といったような取組も進めているところでございます。あと、みらい公園湖南の中に市民農園がございまして、そちらで市民農業塾の開催など、担い手の育成を進めています。

17 ページ目、お願いいたします。まちづくりの分野で、地域の好循環を支える市民主体のまちづくりとしまして、まちづくり協議会の活動や、若者のまちづくりへの参画を促す取組であるこなん政策アカデミーをしておりました。こちらの方は提案事業をブラッシュアップして、翌年度提案された事業を予算化するという取組で、健康寿命延伸事業や、今年度からスタートしております若者まちづくり課プロジェクトにつきましても、こちらからの提案であり、連携した取組となっております。こういった取組を進めることで「シビックプライド」まちへの誇りや愛着を醸成していきます。

続きまして19ページでございます。これは県連携事業になりますが、人材確保の分野ですが、県内大学の卒業者が、県内の民間企業に就職しない傾向にありますので、大学生を中心とした若年層に対して、県内企業の認知度を高め、魅力を伝える取組の中で合同就職説明会、障がい者の方も含めた説明会を開催して、集客力の高いホテルを活用して実施した取組でございます。

21 ページでございます。こちらの方は移住定住の促進というところで、市ホームページのリニューアルの中で移住定住サイトを構築しまして、移住者の方などに閲覧していただけるように取組を行っているところでございます。

23 ページでございます。健康寿命延伸プロジェクトとしまして、健康に関する無関心層を好奇心に変える魅力的な取組や、食やスポーツを通じて、健康に対する意識付けを行う目的での取組でございます。

25 ページでございます。SDGsにつきましましては今年度からスタートしたものでございます。先ほど申し上げました若者まちづくり課プロジェクトや、甲西高校とも連携して、地域資源教育推進事業を進めていきます。また、湖南省は昨年7月にSDGs未来都市として国に認定されておりまして、その翌月にはゼロカーボンシティを宣言し、全国に先駆けてエネルギーの取組も積極的にしていきます。地方創生の取組は以上でございます。

続きまして移住支援施策として、結婚・子育て支援事業一覧として取りまとめたものを準備させていただきました。この中で、一番大きいのは医療助成というところで、この6月市議会で議決され、中学生までの医療費の自己負担を、全額助成するといった制度を9月からスタートしますので、移住定住促進の追い風になると考えております。その他結婚や婚活支援というところも、施策として実施しております。

続きまして28ページです。次の自己紹介のところで、市の情報発信についてご意見いただけたらと思ひまして、情報共有ということでご確認いただければと思っております。

29 ページ目です。情報発信につきましましては、課題として自治体がプロモーションも含めまして情報発信が非常に下手だということも言われております。市の方では様々な情報発信に関する取組をしているところではございますが、本市での情報発信方法につきまして、ご提案をいただければ、それを参考にさせていただきたいと思っております。まず市の情報発信の整理として、基本的な考え方として、誰に対してなのかというところは、行政情報を求めている人であって、子どもからお年寄りまででございます。次にどのような方法なのか

申し上げますと、できるだけ多くの媒体を通じて発信する。それは紙媒体から SNS などの新たな方法まで幅広く取組を行っていくというものです。

30 ページ目です。整理しますと、行政情報を求めている人が意識的に求めた情報を、容易に検索できるようにその環境を市として整備していく、ということを考えています。一方で市民活動支援やシティプロモーションにつきましては幅広く周知するということが必要になってきますので、やり方は少し違ってくるのかなと考えております。

続きまして 31 ページ目でございます。市の情報関係のご紹介で、まずは生活情報の分野、市民向けの分野になりますが、広報こなん、ホームページ、アプリ「こなんいろ」、タウンメール、ライン、広報チラシポスターや冊子、紙媒体のものでございます。

32 ページ目につきましては、シティプロモーションを幅広く認知していただくために湖南市公式 YouTube チャンネル、クラウドファンディングで活用したウェブ、市内組回覧などの幅広い市民や市外の方に向けた発信と、SNS の Facebook やツイッター、テレビや新聞などでも取り上げていただくためのメディアへの資料提供、外部団体からの発信、と考えております。

次のページは市のキャラクターにつきましては、こにゃん、いしべえどん、公式 YouTuber Minami が主なものになっております。

最後のページでございます。市も様々な取組をしていることではございますが、予算や人員に限りがある中で、どのように効果的に情報発信していくかというところで、一応右端の表が予算額であるとか、登録者数や発行部数の参考に添付させていただいていますが、こういった中で、もっと集中的にした方がいいのではないか、思い切ってやめたほうがいいのではないか、という意見も承りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局) それでは続きまして、次第の 4 番の議題に入ります。評価委員の皆さんにつきましては、この後それぞれ熱い思いを語っていただくということになるかと思いますが、参加者の皆さんの発言機会をできるだけ確保したいと思っておりますので、できるだけ簡潔なお話へのご協力をお願いしたいと思います。

それでは、日頃生活で感じておられることなどを、ご意見として、それぞれのグループでいただければなというふうに思っているところでございます。では、委員長どうぞよろしく願いいたします。

委員長) 皆さんこんにちは。地方創生っていうことで、これからまちをどうしていくかというのには本当に、まちの皆さんに委ねられるというタイミングがやってきました。

地方創生の最初のときの言い方は移住定住という形で、とにかく人口をなりふり構わず増やしてくれというのが国からのリクエストでありましたけれど、少し冷静に考えると、もっとまちの未来について考えるべき内容はいろいろあり、そのように今回の計画や、もう少し落ち着いたところで、人口も含めて、まちの未来について考えることができるようになり

ました。

しかし、その中身を今日紹介いただき見てみると、やっぱり自分たちでやらないと、最早誰かがやってくれる、何かの国の施策や国の経済が上手に回ったときにおぼれに預かれるような、そんなアイデアはほとんどここにはありません。自分たちでやろうということが、今回の計画として新しい地域創生の鍵を握っていると思います。今日の議論が実りあるものになるように努めていきたいと思います。

ではまず第一部ということで、お手元にございますプロフィールシートを元に皆様のご自身のお仕事の内容やご自身の情報発信ということについてはぜひご発言いただくような形でアイスブレイク自己紹介を行いたいと思います。例えば、今日話題となっている「湖南らしさ」ということを、その際、念頭に置いて発言いただくとか、或いは、先ほど事務局から依頼もありましたように市の情報発信についてどのように受け止めているかとか、或いはその他他市の地方創生の取組についてこういうのがあるということでも結構です。ご自身の紹介を兼ねたアイスブレイクをここでお願いをしたいと思います。その場で結構ですので、私の方から委員の名前を呼びますので、その場で自己紹介をしていただければと思います。

委員1) 秋になると全国からいろんな方が紅葉を見に湖南省の方に来られます。その時に、お客様といろいろと交流したところ、紅葉は見れるんですが、なかなかあと東海道をみたいと言われてもそのあとの説明がなかなかできない。「街並みが見たいです」って言われてももう何も街並みが残っていない。とても悲しい返事ばかり今までずっとしてきたんですけども、最近は民家を綺麗にして、新しくされてるみたいなんで、これからもっとどんどんそういう街並みを綺麗にさせていただいて、あとお土産を買うところが大変少ないとおっしゃることが多いので、そういうこともいろいろと湖南省で考えていただきたいと思います。私もない知恵ですが、少しでも出したいと思います。よろしく願いいたします。

委員2) 私の会社では、工業用のフィルムのスリット加工というのをやっておりまして、なかなか皆さんお示しするものが実はなくて、いろいろなところの工場の中の自動化とか、その製品に必要な工程フィルムとか、そういったところでご使用いただいているものがほとんどでございます。例えば皆さんお使いのスマートフォンとかそういったものの中にも何層かフィルムが入っています。そういったものも取り扱いをさせていただいております。最近では、大手の半導体を作られているチップビジネス、コンデンサーとかそういったものの部品を、メーカーから基盤にバウンドされるような工場なんですけど、そのために使うキャリアテープというものが非常に多く需要があり、なかなか最近半導体不足とかそういったことも耳にしますけれども、まだまだこれからもそういった分野は滋賀県の中では強みとしてなっていくのではないかなというふうに思います。

それからこの茶話会の内容を、本日まであまり十分に目を通してこなかったことを反省

しているんですけれども、素晴らしい計画を立ててこられたなというところで、業者の方々ともお話することあるんですけれども、本当に緻密な計画の中で、我々が日々生活できているんだなと感謝しております。また今後も、そういう中で、皆さんと今日はお話をさせていただきながら、勉強させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員3) 日頃は仕事だけじゃなくて、組合活動で組合員さんがいい環境で仕事していけるように会社と一緒にやっています。プロフィールにも書きましたけれども、島根県出身でして就職するときにこっちに来て、育ったところよりはるかに長く石部に住まわしてもらっています。なぜこっちに来たかっていうと、当時やっぱり島根県に全くじゃないですけど大きな企業がなくて、石部は今働いているところもそうなんですけど、企業が多いっていうことで来させていただきました。やっぱり今、人口の話がありましたけれども、やっぱり働く場所を増やして、人が入ってこられるような形にさせていただきたいなということを思ってここにやってまいりました。よろしくお願いします。

委員4) 転勤が多い職場ですので、ここ湖南省以外には守山市、草津市、甲賀市も回りました。得意先係をしていますので、個人のお客様を中心に回らさせていただいておまして、いろんな方のおうちに行って、その方と喋って、その土地の特徴とかどんな方がというのを色々お話する中で聞きこんで、どんどん繋がりを広げていって、というのを大切に仕事しております。湖南省の方の特徴としては皆さんとても優しくオープンな印象を持っています。よろしくお願いします。

委員5) 僕自身も自分のウェブメディア、ホームページ、個人のSNS、事業運営のSNS、各種使っているいろいろ発信はしているんですけれども、わりと移住してからの暮らしの変化みたいなのは個人で発信していたのです。そうすると移住の方に興味あるかたっていうのがいるなって気づいて、要はシティプロモーションであつたりとか、移住促進っていうのは行政だけの仕事ではもちろんないって分かっていたんですけども、お店を移住して立ち上げることも窓口になれるっていうのは実感しているところで、その中で自分も湖南省をどう紹介していこうかなというのはより深めていきたいと思ひまして、今回参加しました。

委員長) ありがとうございます。湖南省の市民さんになってやはり湖南省を紹介しますとか、このテーマがありますからどうぞこちらに来てくださって発信だけでなく、やはり多くの人たちが関心持っているような切り口が、個人の様子なども見えるようなそういう情報発信が実は多くの人たちが知りたい情報発信の多分入り口になっているんだなあというのがよくわかります。最初は入り口がやっぱりすごく重要で、引っかかるところがどうなのかっていうのいろいろ勉強していくと広がっていくんだなあと聞いて思ひました。ありがとうございます。



委員6) 障がい者を農業で雇用したいというので、私もその頃は湖南省の特産の下田ナスをやっていたんです。これならいけるだろうということで下田ナスができる6月から9月まで、下田ナスの収穫、袋入れや測り、葉張り、草取りというのをやったんですけども、結局は夏の仕事であるということで、3年間でやめてしまったんです。やめたというのは、作業所の方が行けなくなったんです。指導員さんを連れていくとか、そこに参加できる子がない。これでは農福連携はできないという事になってしまいました。障がい者が就労できる機会が非常に少ない。はっきり言って湖南省は障がい者の就労率が弱いんです。そういうこともあって私のところが順調に就職できているので、何とかやりたいという事もあって農福連携でそういう就労支援ができないかなと、湖南省の方にいろいろ働きかけをして、要は湖南省の農業の特産化、もう今全部できているんです。最初は下田ナス、弥平とうがらし、最近出てきたのが東寺のごぼう、朝国の生姜。今は、からし菜ができないかというものです。結構湖南省のほうは特産品ができる地質がありますので、その辺を使ってなにかしら市の発展ができないかと思うんです。もちろん市の発展の中には障がい者をいかに取り込むか、それが一番大事だと思います。これは障がい者を大事にする湖南省にはよく人が集まってくる。そういう事をやったら市がますます発展するというふうに思っていて、そのところを今日いろいろお話させてもらいたいなと思って参りました。どうぞよろしく願いいたします。

委員7) 私はお店を開業いたしまして今年でお店の方は4月で2周年になり、今年の10月で開業3年目になります。夫の仕事がこちらでしたので引っ越してきました。こちらで出産子育てして、子どもが2人いるんですけども、湖南省に住んでからいろいろ思うことがありました。自分がこの地についたのは夫の仕事がきっかけではあったんですけども、自分がここで子育てそれから出産を経験して、自分の子どもがこのまちで大きくなっていく、成長していくっていうことは、私ではなく「子どものふるさと」になっていくというところで、なにか私自身にできることがないかなっていう気持ちにおのずとなくなっていきました。それがきっかけで飲食業ではあるんですけども開業して、地元の農家さんと繋がって地元のお野菜であったりお米、お野菜の相談であったり蜂蜜の採取にもいろいろ関わらせていただいております。

また私の子どもが2人とも湖南省発達支援システムにあります湖南省ことばの教室の方でお世話になっております。最初は通級で普通に保護者としてですけども、その関係もありましてまた福祉の面から子どもの育ち、こういう支援の面からでも何か自分にできることはないかなと思って、色々考えながら私自身ができることをいろいろ模索しております。どうぞよろしく願いします。

委員8) 今の仕事で寝たきりの方とか高次脳機能障がい、後遺症で半身麻痺になられた方の

機能維持のためにお伺いしているんですけど、お年寄りの方ばかりなので湖南省の歴史を教えてください、5つの村で一つになったっていう旧の在所で隣近所皆さんが親戚なのでお家を探すのも大変で、新興住宅地で育っているのも身近な方の繋がりとか、どういうふうにみんなが支えあっているのをこの仕事を通して教えてもらったので、そういうことを表現できたらいいなという思いを持ちながら仕事をしていました。

実際、生活されるにあたっての相談をしていただくことが多かったのですが、私は専門ではないので調べるにしても行政のこと全然知らないなと思ったのもっと勉強してみようと思いました。調べてみると私でも読んでいたら難しい、お聞きしつつ自分も学んでいかないといけないなっていうのと、現場の患者さんとお話ししていると普段逆に情報は回らないっていうので、それだけではなくこういうことを他の人と共有出来たらなと役に立てることってあるんじゃないかと思っていましたので、去年立ち上げた瞬間コロナになってしまったんですが、現場の患者さんと一緒にその方が欲しいというものを一緒にものづくりをして、現場のことをちょっとでもうまく表現できたらいいなと思って、今ちょうどクラウドファンディングをやっていますので、SNSの発信というのを本当にやったことがなかったので、ただ去年始めた事業も発信しないといけないので、そこが難しい。何か逆に教えていただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

委員長) ありがとうございます。皆さんの多様な取組や事業をされておられる委員の方々は、SNSを含めて主体的に発信の努力ということは、求められる事態にいろいろ経験を積まれておりますので、ぜひいろいろなご発言をさらにしていただければありがたいと思います。事業を市民の皆さん、市外の皆さんにも知っていただくことがあり、湖南省においては大変重要なことでもあります。また皆さんの暮らしの情報や暮らしに必要な情報もきちんと行き渡っていくことも必要ですから、多面的な魅力ある発信方法ってのはぜひ、見つけ出してこの第二次計画で活かしていけるようにしたいと思っております。ありがとうございます。

委員9) 私自身は実は全然滋賀県と違うところで生まれ育ちをしております、6年前に赴任をしてきたのですが、それまでは「湖南省っていったいどこ？」っていうくらい全く知らなくて、近江八幡はまだ有名なので知ってて行ったのですが、ここに来たときは全く知らず、それくらいでこちらに来た人間です。それが来て3年間はそのまま担任をしていましたので生徒とずっと関わっている形なのですが、3年前から教務部という学校の中心のところに異動になりまして、来年度から本格実施で、先行実施で「総合的な探求の時間」という授業があります。その授業の企画運営を任されることになりまして、何が出来るだろうって考えたときに折角学校のそばに市役所とかいっぱいあって、生徒も地元の子が一応多いです。草津からだいぶ来るようになりまして、それでも甲賀湖南で約半分くらいの生徒がいますので、せっかくだから地元を題材にして、たぶんこの子たちは大学で外に出てしまってもどっかで帰ってくるだろう。学校の目標自体が「地域で活躍するリーダーを育てる」って

というのが学校の目標になっておりまして、それも難しいだろうっていうことで、2年生の探求の時間のやり方を「甲賀湖南地域における課題を見つけて自分たちなりに解決する方法を考えて発信しよう」という形で昨年度から動いています。

委員 10) 肩書きは総務省地域力創造アドバイザーです。実働としては、米原市と湖南省、兵庫県の赤穂市と姫路市をレギュラーで、チームの方と一緒にいろんなことを考えて動いております。湖南省に関しましては現在でも、龍谷大学の学生たちと一緒にクラウドファンディングを立ち上げようということで、動きつつあります。それから市内にある障がい者の作業所からもぜひクラウドファンディングをやりたい、ということで一緒に立ち上げようということで思っております。実はクラウドファンディングもお金集めっていう目的だけじゃなくて、自分たちの今やっていることをいろんな人に知ってもらうツールとして使っていくべきだというふうに私は思っていますし、湖南省に来てからも15件以上立ち上げていますので、もうなんでも相談を受け付けて、どんなことでも立ち上げようと思っております。教育関係でもお話を伺ってポケトークを普及させようというクラウドファンディングを立ち上げたり、いろんなことが応用できると思いますので今後いろんな方とお付き合いをしてやっていければなと思います。よろしくお願いします。

委員 11) 湖南省さんの印象としましては、すごく人材が豊富で地域おこし協力隊の方が機能的に動いていらっしゃるからだと思うんですけどもユニークな取組が多くて、とてもメディアとしては取り上げ甲斐があるなと思っています。ただ一方で観光が弱いなと思っております。旅番組がなかなか湖南省さんで作れないなと思っております。今日は「もっとこうしたらテレビやラジオや新聞で取り上げられるのになあ」というアイデアが出せたらいいなと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員 12) 湖南省の観光という所をお話するといいんですけど、私も地元で71年間ずっとこの湖南省で育っております。吉永には三雲城址という中世の山城がございまして、また八丈岩という場所もありますので、そのまちおこしというところで20年ほど前から地域でまちおこしをやってきました。私の吉永というところは旧というか、もともとは60戸だったのに対して今は430戸ほどとかなり増えています。そこが良かったのか、地域の皆さんに声をかけますといいコミュニケーションがとれているという事で、同時に猿飛の聖地、昔の山城というと荒れ放題のところですのでそこを整備しまして、そうしますと八丈岩という大きい岩があり、これが落ちそうで落ちないという事で、これを何かにといい事で合格祈願の岩という事に、そうして言っている中におきまして今度はお城ブームという事で山城がどんどん人気になっていく。そこで6年ほど前から湖南省さんの方もそこをまちおこしという事で猿飛佐助という事で忍者ブームなんかにおいて、猿飛佐助をまちおこしにしようという事で、幸いにしてこのお城ブームが続いておりまして、今では御城印帳というものを、

佐助のグッズとまちづくりの方も今は頑張っているというところがございます。

委員 13) 東京都出身でそのまま東京の会社に就職して仕事をしていたんですけども、実は中学生くらいの時から大の仏像好きで大学に進んでからも文化財系と、その時は中世の寺院史、なので室町時代のお寺の地域社会の経済史というのが専門でした。それをやりましたのも、今のある意味まちづくりに関係するのですが、どうやって地域がその時運営されていたのか、回っていたのか、というところはやっぱり人のうごきだったりお金のうごきだったりとか、もちろん自然環境であったり、そういうところが今思えば繋がるなというふうに思っています。今年の4月から法人化させて仕事をしています、内容としては、主にお寺とか文化財関連の情報発信のPRや、それに関するコンサルティングというところになるんですが、長浜市の方では所有者の方々のそういうところも含めた相談役のようなお仕事もしています。

湖南省については最近の繋がりとしてはこの長寿寺さんのクラウドファンディング関連のところで、こういうことをやっている人が居るよと紹介を受けて、お邪魔したりしたご縁があります。大学時代の時も実は湖南省の仏さん巡りもしておりまして、もちろん湖南三山もそうですが三雲の方の上乗寺さんとか永照院さん、そういった所もお伺いさせていただいています。本当にまだわかっていないだけで、湖南省の仏像だけでなくすごく歴史的なところもまだまだ可能性があるだろうなというふうに思っています。いわゆる仏像好きなファンとか歴史好きなファンのコアなところに発信する時と、地元の方々に理解していただく、クラウドファンディングもそうですけどこういうことができる、それによってどんな影響があるのか、観光客がたくさん来てどうなるのか、自分たちにどんなメリットがあるのかという事をわかっていただくためには、結構そのメディアの力だったり、それを紙面という公の場で情報を出していくという事もすごく大事になっていくのかなというふうに思っています。どうぞよろしくをお願いします。

委員 14) 関わりとか仕事内容とかは書いている内容を見ていただけたらいいかなと思います。最近興味があるのが、まちづくりっていうのを自分のビジネスにできないかなと思って、1年前くらいに市内の大学生の方を雇用させていただいたんですけども、雇用する条件を「絶対に卒業したら外に出ること」っていう条件で雇用させていただいたんですね。その学生がこの前就職先が第一希望の名古屋のデザイン会社に決まったんですけども、基本僕は20代、高校卒業大学卒業したら1回外に出た方がいいと思っています。逆に帰って来た時に能力を発揮できるまちにした方がまちのパフォーマンスも上がるし、その努力に何かいろいろ支援できるまちになった方がいいんじゃないのかなと個人的には思っています。今日は情報発信っていう部分なので自分が今までやってきたことも含めて、いいアイデアを出して、このアイデアがただのアイデアだけに終わらず、形にできるようなことを一緒にできたらなと思っています。よろしくをお願いします。

委員 15) はい、最後です。よろしくお願いします。僕の専攻はエネルギーなんですけれども、カーボンニュートラルの話が最近すごく盛んに言われていると思うんですが、目標が2050年なんです。だから30年後で僕自身もたぶん55歳くらいなんです。となると、やっぱり次世代の高校生とか大学生とかそういう世代がまちづくりのことだったりとか、今後の社会をどうしていくのかっていうのは一緒に考えなきゃだめだと思うので、本当はこの会も10代が居ればよかったのになぁと思いながら参加しています。20代代表っていうのはおこがましい話なんですけれども、若者としてどういうことを考えるかっていうのをいろいろお話できればと思いますので、よろしくお願いします。

委員長) はい。皆さんありがとうございます。非常に多様な湖南省との関わり、あるいは世代も多様な世代で、いろいろな自治体でこの仕事をお手伝いすることがあるんですけれども、非常に、ユニークでチャレンジングなメンバーシップかなというように思っていますので、この後の討論が、皆さんが参加してよかったと思うような討論にしていただければと思います。特に審議会をずっとやってきて思ったのはですね、自由に発言していただいているのに、妙に遠慮されていますのがとてももったいないなと思いますので、皆がちょっと発言し過ぎと抑えるぐらいご発言いただいたらありがたいと思います。ここでグループワークの意見交換という議題二つ目に移っていきたくと思います。グループでそれぞれの立場から感じていらっしゃる湖南省の強みや弱みというものを出し合っていたらいいと思います。

20分ほどグループワークをしていただいて、そのあと休憩を挟んで、各グループの報告をそれぞれグループの中でお纏めいただいてご報告いただく、そういう運びにしていきたいと思いますので、このまますぐグループワークに移っていただいて、そののちに休憩して報告という手順にしたいと思っております。各グループにそれぞれ職員の方が配置され、このあとの運営をされますので、どうぞ皆さんご協力をお願いいたします。

それでは職員の方にお渡しします。よろしくお願いします。

#### ■グループ意見交換 (15 : 00)

##### Aグループ

職員 A) ここからは私の方が進めるということになっております。どうぞよろしくお願いします。今しがた司会の方からもありましたし、冒頭で市役所職員からもありましたが、このグループワークでは湖南省の強み、弱みを抽出するという事でございますので、皆さんそれぞれ冒頭の市長も言っていました通り忌憚のないような意見、それぞれご自由に、気楽にご発言いただけたらと思います。今いろいろと自己紹介をしていただきました中で、それぞれの意見の中でも湖南省の強みとか弱みもすでに出てたと思うんですけれども、そういったものについて深みをつけていきたいと思っております。特に最初に委員1さんからありました東

海道ですね。非常に湖南省の強みではあるんですけども、やはりおっしゃられた通り街並みがもうひとつ残ってないとかそういうところが弱みになっていると思います。そういったことでそれぞれご自由にご発言の方いただきたいと思いますので、よろしく願いします。

委員1) 街並みは中々すぐに復活することもできないし、皆さん歩くことを楽しんでいる部分があるんです。でも、石部に限ってかもしれませんが、住んでおられない家がかなり旧道沿いに増えています。もっとその活用法を早くしないと本当にもううちの近所なんかお年寄りばかりで、なるべく早くそのことだけは進めてほしいなと思います。

職員A) 空き家対策ですね。今市役所の方でも空き家対策「あきやナクス」という事をやっておりますので、そういったことも進むんですけどなかなか空き家の解消にはならないですけれども。

委員5) 知り合いがすでに大体地域を巡られて空き家調査を進めてたんです。それが石部中央あたりから西の見付あたりまで、20件くらい口コミで空き家があったんですよ。知り合いが地図も作られていてすごい空き家だらけだったんですが、それでも知り合いもまだ一軒も拠点は見つけられていなかったんですけども、「なんで？」って聞いたらお互いが素人で、かたや移住してきたばかりの夫婦が地域の方の空き家を借りるのはなかなかハードルが高い。情報は入るんですけどどうやって借りたらいいかわからない。貸したいって思いがある方も中にはいらっしたんですけど、どういう契約を結んだらいいかわからない。どういうふうにしてあげたらいいのか。

職員A) そのつながりを市役所が支援できる体制を整えなければいけないですね。そういう物件の情報を的確に収集して、発信するという事が不足しています。

委員5) 感覚的には地域の方に信頼されている方が間に入るほうがいいな、というのは感じました。口コミで空き家情報を集めてくださったのも、ある石部の住民のおひとりの女性の方なんです。ずっと石部に住んでいる方で、その方が間に入ることである程度地域の方が情報を開示してくださったって背景もあるのですが、その方も不動産とか契約のこととか全く素人の方なので、それ以上はお互いに任せますってことでストップしてしまったんです。普段から「空き家があったら活用できるよ」って地域でコミュニケーションとか信頼関係を作られている方がいるといいなっていうのとお仕事として信頼関係を結んでいる方がいるとすごくスムーズだなっていう経験があって、移り住んできてから確かに地元の方の協力があるとすごい情報が集まるなっていうのもあったので、お仕事として信頼関係を結べる方がいるといいかなっていうのは思いました。

職員 A) 市役所も「あきやナクス」というのをやっていますけれども、地元に住んでいる方は隣近所にどういった方が移住して来るか分からないから不安だと思います。その辺をどのように解消していくのが課題だと思います。大きな企業があったからこちらの方に就職に来られたという事で、湖南省にはご存じのように湖南工業団地という大きな工業団地があってそれも強みなんですけれども、製造業が多く、土地がなく新しいところが入っていない。そういう部分があるんですけど、どう思われますか。

委員 2) 先ほどの話から中身がコロッと変わるんですけど、そうは言いましても地元で大きく企業を発展されている創業者の方々も最初は小さい、どこかの物語のようにリアカー引いてみたいところから始められているところも結構ありますので、三代目にして大きくされているという形を見ますとやっぱり初めがこういう規模ではないとだめとかではなく創業するチャンスをこの地に引っ張るような支援もあっていいと思いますし、例えば貸し工場とか、どっかの抜けた工場を分割してやられるとか、地域おこしの工場版みたいなのが一つあっていいんじゃないかと思います。

職員 A) 創業支援とかそういう部分もやってはいるんですけども、情報発信も不足しているし実際にそこに対する金銭面の支援ですね。そういったものもマッチングはしづらいかもしれません。

委員 2) タダでもらえるんじゃなくて、行政も内容を精査して生きた資金にしてもらわないと意味がないので、そこは厳しい目でお互いを見て、どれだけの人に情報発信して、逆に言えば応募していただけるか。

職員 A) さっき市長も製造業がたくさん集まっているのはいいけれども、これからの時代、ハイテク化でそんな広い工場でなくて、小さい規模でもかなり世界的に大きな企業をどんどん呼んでこようと言っておられるんですけども、今の市役所の体制でそういった情報もどうやって収集したらいいのかなっていうのは悩みではあるんです。

委員 2) そうなるとやっぱり住まいとか子どもの教育。それがセットになっているのです。

職員 A) 総合的に子育てや福祉など従業員のための住環境が整ったまちであれば、企業が来てくれるということですね。

委員 2) そうですね。湖南省で会社を運営されていてお住まいが草津とか大津とか結構いらっしやるんですね。なぜっていうと子どもの教育がとかそういうことを言われるのは多い

です。

職員 A) 工業規模だけでなく総合的という事ですね。そういう事が必要ですね。委員 3 さんはどう思います？

委員 3) 人の定着っていうところで、草津大津とかわかるんですけども、なんで甲賀市にいかれるのかなあと。湖南市より甲賀市に。

委員 2) 先ほど説明があったデータですね、流入流出の湖南市から甲賀市にいかれる数が結構ありましたね。

委員 3) 甲賀市の魅力ってなんなんでしょうって考える。

委員 1) 一戸建てが安いとか。

職員 B) 地価とかもありますね。

委員 1) 向こうの方が安いんで家を持ちたいって思ったときに甲賀市からやったらすぐに、働くところがここでもってということですかね。

職員 B) 住みたいとは違うでしょうね。

職員 A) さきほどの空き家もあるのにもったいないなと思うのですけどね。

委員 3) 甲賀市もどうか分からないけど、交通っていうか駅までのアクセスが、近くの人はいいでしょうけど、近くに石部駅あるんですけどなかなか歩いていけない。めぐるくんも、私は乗り物大好きなんで草津とかいくのも電車で行っていいと思う。ただすごく電車に乗りにくいっていうのがある。めぐるくんに乗ろうと思っても、いまいち時刻表が分かりにくい。

委員 1) めぐるくん、いつもお客さん乗せずにぐるぐる回ってはるもんね。観光の季節なんか、せめてここで降りたいって他所から来た人でも言ってくれはったら降りられる仕組みを緩和していただけたらっていつも言われます。駅までと銀行までの間がすごく長いんです。途中で降りたいけど駅まで行かなあかん。観光の時期だけでも緩和していただけるような。



職員 A) 運送法上どういう仕組みなのかわからないんですけど。田舎のほうに行けばね、手を上げたら止まってくれるとかそんな事もありますけどね。ただできないと聞いています。ほかどうですか？

委員 4) 私は不動産の情報っていうのは大切にしている、いろいろ聞き取りとかをするんですけど。最近空き家っていう話で言うと二軒持ちっていわはるお客様が結構多くて、どうせ売れないからそれはそのまま持ったままで、琵琶湖の見えるマンションにいこうとか遠くに住むとか、どうせ売れないしっていう感じで別荘みたいな感じで二軒持ちとか結構聞きます。お父様がなくなられて空き家やけどそのまま持っとくっていうのも多いですけど、仕事上売るか買うかみたいな売り出し買い出しの話しかししないので、貸すとかそういうのも情報として投げかけてもいいのかなと思いました。あとは幹線道路ですが、今って新しい国道、イオンとかができる道がありますよね。じゃなくて旧の国道。あの辺とかで空いている土地とかを買って、なにか商業施設をして家賃収入を得たいと思っはる方も多いんですけど、市街化調整区域だから結局できないしっていう感じで、買いたいけど結局何もできないしっていう方の声も聞く。そういうのが出来たら活性化にもなるのかなと思います。

職員 A) 都市計画法に係る難しい話なので、なかなか旧道沿いでも事業ができる場所もありますけど。

職員 B) そうなんです。いま県道 4 号っていつて草津伊賀線と言いまして旧国道ですね。そこがずっと市街化調整区域のところがあったんですけど、宅地になっているところは市街化区域にいれさせてもらって利用ができるような形に、土地の地権者とも話をしながらさせていただいたのが現状なんです。ただ旧東海道は、石部地域は市街化区域ですけども、石部東を超えると吉永の手前まで市街化調整区域で住居しか建てられない、自己用住宅しか建てられないところなんです。ここを今後どうしていくかっていうのが一つの課題だと思います。さきほどもありました石部地域でも空き家がたくさんある。やっぱり地元の精通者という、キーワードが出たと思います。やはりそこをマッチングさせる人がいるのといないでは大きく変わってきます。地元の中でこういうところがあるっていうキーパーソンになるような人が、実情はよく知っておられる方がおられます。いろんな話の中でやっぱりキーパーソンになる人が大事かなっていう思いは持ちましたね。

職員 A) 地方創生という事なんで湖南省に住んでいただくことも大事ですけども、お金を落としてもらうってことも大事だし、観光に来てもらうことも大事だと思うんです。先ほどからいろんな方の意見がありました通り、観光に来てもらうようなお寺はたくさんあるのに情報が発信できていないので、観光客に来てもらえない。

委員1) いえ、結構秋の季節は名古屋からのお客さんが多いんですよ。皆さんお寺を私よりすごく詳しくて、どんな仏像があるとかお客さんに教えていただくことが多くて、きてくれるんやけど、お寺を見た後の時間ちょっと余った時に買い物もしたい、街並みも見たい、って言うっていただけたときにお金を落とさせていただける場所がないんです。山の方に行くとしゅらくの里はあるんですけど、そこはお金を落とすような商店がないですし。もうちょっと西寺、東寺ってあるんやから、公共的なものでもあったら「あそこ行けますよ」っていえるんですけど、十二坊へ行ってお風呂入ってきてくださいとしか言えない。

職員A) 情報はどこで仕入れられているんでしょう

委員1) やっぱり仏像好きの人はSNSとかです。

職員A) 専門的な人は見られているから知っているけれども、全く知らない人がその情報を得ようと思うと、もっと広く発信していろんな情報が見れるようにしないとイケないと思います。例えば市内に住んでおられて、湖南省の観光地ってどういうところ思ってますか。委員5さんは外から来られて、湖南省の観光地ってどういうところに行かれたとか、以前から知っていたとかありますか？

委員5) 恥ずかしながら湖南省を初めて知ったのは2018年、3年前です。ただ、観光地は目立ったものは確かにないなって感じたんですけど、とてもバランスのいいまちだと感じたんです。かつて2町が合併してできたってことなんで、それぞれエリアの特徴が残っている中で真ん中の平野部もあって、個人的な生活者としてなんですけど、密の部分とそうじゃない部分のバランスがすごく良くて、商店もそれぞれコミュニティがあるので、僕みたいに起業してこれからやっついこうというふうな人間にとってはとても懐の広いまちに見えました。京都にいる友人知人も意外に近いねって聞きますし、遊びに来てくれるっていうのがちょっとずつ増えてきているんですよ。そういった所で「高速道路で遊びに来れる湖南省」っていうのかな、何かあるといいなって思っているのが一つ。じゃあ何して遊ぶっていうのがあるんですけど、キャンプ場のゆららさんは可能性を感じています。どこ行ってもキャンパーの友達がいるんですけど「湖南省に住んでいるよ」っていうと「ゆららさん、あるね。十二坊あるね」って知っている人多いんですよ。キャンパーからすると割と有名どころらしくて。

職員A) 今キャンプがかなり流行っているみたいで、そこはいつも予約でいっぱいだそうです。市長もあそこ広げよっていうことを盛んに言われるんですけども、これも都市計画法の規制関係でなかなか…。山の中でキャンプ場広げられない。

委員1) 雨山はダメなんですか？宿泊施設がそのままなんか老朽化して雨山にちょこんと。キャンプ場、バーベキューするところも置いたままになっているから。プールは壊さはるんですか？

職員B) プールは撤去しています。

委員1) もう壊さはったんですか？すごく広くてみんな京都くらいから野球の試合に来てはるから。そこは、キャンプできるんちがうかなあ。何もないとこやけど。

職員A) ちょっと聞きます。委員4さん、どうですか？観光という面で、いま湖南省から出られて外から見た感じはどうですか。

委員4) 湖南三山の飲食店のコラボは行きました。あれはすごい面白い企画やなと思っていったんですけど、それ以外はあんまり。湖南省のどこ行くと行ってもなかなかない。

職員A) ちょっとマニアックなんですよ、お寺とかそういうなんはね。誰でも楽しめるもんじゃないかもですね。

委員1) 小さい子ども連れてとかね。

職員A) それに特化することはないんですけども、いかにまちを発展させていくかと思うと、やはり住む方が住みやすいまちにすることと、外から来られる人も楽しむという形で。そこからへんが弱いつていう話かと思うんです。あと商業面とかどうでしょう。

委員1) 商業ですか？もう商売屋さん自体がなくなってきてるんで、実際の話。

職員A) 買い物なんかどうされてます？

委員2) 買い物ですか？僕は京都まで行ってます。

職員A) なかなかね。湖南省は農地があって、山も近くて、いいところなんですけども、農地では商業地にできないとかいろんな制約があるんですけども。やっぱり商業も大事やと思うんですよ。

委員1) 後継者が問題。お商売屋さん自体が次の子どもたちに「もうしんどいからやめなさい」っていう感じやから、皆さん全然違う仕事を始めてはるから、だんだんお商売屋さん

が減ってきている。

職員 A) ありがとうございます。一応このグループは経済・産業という事でございますけれども、いろいろ湖南省の強み弱みというような感じの中でご意見をお伺いしたところでございます。それでは、それをどうして活かして、また地域の方のご協力を得て、そこに投資をしていって湖南省が発展していくというような、どのようにしていくかそれぞれご意見があればお願いします。

委員 1) なかなか難しいですね。

職員 A) もっと市が頑張れっていう部分もあるし、私の意見で申し訳ないですけども、地域でだれか頑張ってくれる人が必要かなと思うんですけども。

委員 1) いま引退されて、地域に詳しくて、時間に余裕がある人が市との窓口になっていただいて、突破口を開いていただいたら、またよそからの人と繋がり窓口になっていただけるとい形はあるかもしれません。

職員 A) 例えば最初に言われた東海道の活性化をするために、街並み整備もそうですけど、そういった市が協力できる部分はあるんですけども、街並み整備してもそこでやっていただける例えばカフェであったり商店であったり、そういう事業所があとに続いてね。

委員 1) 歩いていてちょっとくらい楽しくないとね。

職員 A) 工業とか工場の進出とか先ほど話にもありましたけれども。

委員 2) 規模の大きい企業とか市場が地域にないんで、結局国内外に市場はありますから、湖南省のっていうところで言いますと工業というより主力は商業なのかなと。

職員 A) ありがとうございます。発表していただくという事なんですが、もうこちらから指名させてもらってよろしいですか。委員 5 さんで、湖南省の今の現状から何か強みを活かしてどういった提案があるかというところでお願いします。

委員 5) 僕はお店で陶芸家さんだったり文庫作家さんだったり、顔が見える作り手、手仕事ってテーマで商売さしていただいているんですけど、その関係で信楽にも何人か陶芸作家さんの知り合いがいたりします。昔からそういう活動をしていたんですけど、こっちに移ってから信楽がぐっと近くなったんで割と遊びに行きやすくなったっていうのと、お客さ

んが遠方から来た時に「次行くところを探しているんですけど」っていうときに「信楽に行ってみようと思うんですけど」っていう人結構多いんですよ。地域創生、まちづくりのくくりからはちょっと外れるかもしれないんですけど、行政区を越えたタイアップみたいなもので、湖南三山で紅葉めぐりをしたけど残りの時間どうしようみたいな時に「隣の信楽も見たらどう？」って言ってあげちゃえば、それだけボリューム感のある旅になるんだったら湖南市行ってみようってなるのもいいかもしれない。そういうタイアップ企画っていうのができるんじゃないかなって僕は思っているんですけども。湖南市としてというか、同じ湖南地域として。

職員 A) 他の強みを利用するってことですね。

委員 5) そうですね。取り合いじゃなくてプラスしていく。幸いどちらも高速道路は走りますし、逆に栗東湖南で降りてそのまま下道で信楽に行ってもいいわけですから。そんなに出費も増えないと思う。

委員 2) アウトレットからも来れるし。

職員 A) 経済産業という事で湖南市に最初に話があった通り、雇用を増やすという意味で、そういう企業を誘致して、雇用であったり人口増に繋げていきたいという思いも市にはあるんですけど、そういう期待はできるのかな、というところなんです。それをもっと活かしてという部分はどうでしょう。

委員 2) この地域の旧道の在所の方々は結構裕福な家庭が多いです。そんな土地を手放すとかいうことを考えていらっしやらないおうちが多いです。そういうような新しいものが出るかって言ったらかなりハードルが高い。いろんな規制もありますけど、それ以前にベースがないのでは。

職員 B) そうですね。いま委員 2 さんが言われたように新しいものができるかというハードルが高いことは承知しております。課題はあるけれども、地権者は思っておられない。柑子袋から東は、市街化調整区域でいいということがありますね。

職員 A) 結構外の企業のほうから「湖南市に土地はないか」と問い合わせもあるんですけども、実は紹介できる物件が何もないっていう。市の方でもリストを作ってホームページに載せる準備はすでに行っているけれども、物件がないものですから紹介ができないというところでございます。

職員 B) いま石部緑台地先は、工業団地ができました。高速道路が通る石部地先で約 20 ヘクタールできてます。石部駅もいまリニューアル、バリアフリー化する工事に入っています。

職員 A) こういう交通インフラを活用して、強みを市も上げていこうという努力はしているんですけども、なかなか民間もマッチングしていないというところもあるんですけども。

委員 2) 手が付けられないっていう感じがしますね。僕らからすると。

職員 B) 湖南省の 3 つの駅、駅前がなかなか広がっていかない。やっぱり住んでいるところは昔から開発された四隅の団地のところが開発されています。旧東海道があって、野洲川があって、また旧在所があって。駅を中心がもう一つ見えていない。石部駅の北口は今新しくつくりますので、そこがどうなるのか。ただ民間の土地ですので。

委員 1) あそこの周りは何もできないのですか？

職員 B) 北口広場はつくりますけど、あとは民間の土地なんです。そこがどう考えられるか。もしかしたら、劇的に変わる可能性もあるし、その辺は民間の土地なんです。

職員 A) 会社がそこを売るとか商業開発したら有益やと考えていただけたら。

職員 B) 劇的に変わります。石部駅の北側は市街化区域なんです。あとは甲西駅の南側。コンパクトシティといわれる中で、いかに駅を中心としたまちを考えるのかっていうのが一つの湖南省の課題ではないかなと思います。

職員 A) 湖南省のいろんな課題、市役所の方も認識はしているところはあるんですけども、住民さんとか商店さんとか工場さんの思っておられる課題と市の職員が思っている課題がマッチングしているかというところがあります。いろんな事業として、あるいはさせてはもらってるんですけども、それが効果的に活かされているかというところが、なかなか見えないところがございます。こういうご意見をいただく場を頂戴しているんですけども。この事業、色々見ていただいていると思うんですけども、経済とか産業の事業もあつたんですけども、なかなか単発的で少額で効果はないんですけども、そういった部分についてはどういうふうに思われていますか？

委員 2) ライザップとの提携って何かなって思いました。

職員 B) 健康促進に関する事業です。湖南三山も昔から言われていたわけではなく、県内に

あった湖東三山を引用したかたちです。ただ高齢者の方からは、湖東三山は少し山に登らないといけないですが、湖南三山は駐車場からすぐなのでアクセスがいいとして好評を得ています。最近もテレビ番組に長寿寺が取り上げられました。

職員 A) 時間になりましたので、ここまでにしますが、うまくまとめきれず申し訳なかったのですが、皆さんの意見でも個人的な意見でも結構ですので発表を、委員 1 さんと委員 5 さんよろしくお願いします。

#### B グループ

職員 C) 職員 C といいます、よろしくお願いします。湖南市の強み弱みについて、忌憚なくご発言いただければと思いますので、どなたでも自由な感じでお話いただけたらなというふうに思います。お話ししたい方いらっしゃいませんか？

委員 6) 湖南市は施策が多いと思いますが、強みでもあり弱みでもある。もう少し集中して絞れないか、集中することで人が集まってくる、そんなまちにしないといけないと思う。正直に言うと総合計画とおりに実現していこうと思うと、施策が多すぎます。それをする人が足りないし、お金もないと思いますし、補助金ももらえなくなる。

障がい者に対して思いがあります。農福連携というものがあり、国が言うには高齢者と障がい者が農業を支えるというものですが、実際は支えられるわけがなくお手伝いしかできません。でもお手伝いじゃない何か一つさせてあげたらできるようになるので、そのシステムを作らないといけない。湖南市は全国 1 番の発達支援システムがありましたが、今は 2～3 番に落ちてきています。なぜ落ちたかといえば、施策の実効性が少ないからだと思っています。障がい者の中学卒業まではいいが、そのあとがダメで、例えば障がいを持った高校生の子どもについて市役所に今どうなってるか聞いてもわからないと思います。おうちにいる場合なら、民生委員さんでもわからないと思います。何をすればいいかわかりませんが、思いは再度福祉のまち 1 番になってほしい。ただ福祉のまちと言いながら、一律に障がい者にお金を出すのではなく、障がいが重くない家庭によっては家庭の状況や障がいの程度によってお金を調整できないか、その努力を行政が把握して関わってほしい。そして一般で働ける人は働けるようにシステム化して、福祉のまち 1 番になってほしい。

職員 C) ありがとうございます。厳しい部分もございますが、愛のある意見だと思います。ほかございますか。

委員 8) 福祉サービスを受けた方がよい人でも、拒絶してサービスを受けない人がいますが、いよいよ医療サービスを受ける段階まできて行政が介入するケースがあります。個人情報との関係で引っかかっている部分があるとは思いますが、地域の中で生活困窮の人がいても本

人の事情を本人が持っているので、そこにどう介入するのか、行政が介入していいのかなどどう判断しているのか聞きたいです。私個人も、民生委員につなぐしかできないのです。

職員 C) 行政も何でもできるわけではないですが、もれない支援を考えないといけないと思います。

委員 8) 声を上げること自体が不安で、生活スタイルが変わることを恐れて、言い出せないでいるのでは。

委員 9) 学校現場からみて発達支援の割合が上がってきていると感じます。もっと小さいときから介入していればと思うことがあります。今まで気づかれず見過ごされてきたのは、小中学校時に手がかからず、おとなしく目立たなかった子が、高校生になり、自立して勉強の計画を立てることが出来ないことで気づく。提出物が出ない、親に連絡を渡せない、親とのコミュニケーションが取れていないと感じます。まだ、湖南省は、子どもの不登校に対して他市と比べると取り組んでいると思いますが、まだまだ足りないと思います。弱みのことなんです、湖南省のことを知らない生徒が多いと感じます。私自身の小さいころの経験から、地元になにかあるかを小学校の時に結構調べていましたが、生徒たちも同じように育ったのだろうか、記憶にないのか地元に興味が無い。もっと、地元の大人と関わる経験が出来る場があればと思います。親、先生だけではなく、地域の大人と関わる中で地域に居場所が出来ることで、安定できる子もいると思います。また、小学校や中学校とつながっていけばいいと思います。

委員 7) 小さいときからの支援システムの入り口は、親が何かちょっと大変だなあとか、ちょっとやりづらいなと感じることよりも、先生から発達検査の話を言われてからで、そもそも親が「そうじゃないです」「うちには支援いらないです」という親御さんがまだまだ多いです。言葉の教室の茶話会を年 4 回していて、役員ではない通級している子どもの親御さんが先日も来られて、お話を聞かせていただいたのですが、茶話会に来てくださったがまだ自分の子どもがそうだって、なかなか受け入れられない。じゃあどうすればいいのか。その親御さんが言うには、湖南省の発達支援システムはしっかりと出来上がっているんで入ってしまえばトントントンと進むのですが、お母さんたちの気持ちがついていってないっていうことをすごく言うておられました。私も最初は幼稚園の面接に子どもが行って、私は自分の子はそんなふう、しんどい子だと思っていなく、ちょっとやんちゃなぐらいに思っていたところ、突然「加配がいります」と言われショックを受けました。お母さんの考え方っていろいろで、そこで切り替えて、この支援を受けられるなら受けて、自分の子どもがよりよい方向に行けばいいと思うかです。でもやっぱりその一緒に同居しているおばあちゃんは、いやいや何言ってるの、うちの孫がそんなわけないじゃないの。あなたの教育が悪いのよ、



みたいなケースがあります。そんな中でも、この発達支援システムの通級型や、支援級が中学校までであっても、高校でも支援の計画は持ち上がりで、先生の方にはバトンタッチは一応されていると思うのですが。

委員 9) 学校に提出してくれる場合と、保護者が必要ないと判断され出されないこともあります。情報があれば受け入れ側の体制も変わり、うまくいくケースもあるのに困っています。学校にスクールカウンセラーが 2 週間に 1 回来られますが、十分ではありません。地域の資源を使い、ソーシャルワーカーを増やしてほしい。もちろん保護者の意向もすごく大事ですが、行政とのつながりがあれば、今の現状が変わるのではと思います。話の途中で割り込んですみません。

委員 7) 支援指導の先生等にお話を聞いていると、他府県から視察に来られるぐらい、湖南省の発達支援システムは確立されていると言われています。でもやっぱり、実際高校の先生からお話を聞くと、どこかのタイミングで切れてしまうということで、本来は就労支援というところまでつなげることが本人への負担も少ないし、周りのサポートも変わります。何より一番大事なのは本人なんですよね。お母さん、お父さんの気持ちも大事なんですけど、やっぱり生きていくのは本人だし、本人のための支援が必要だと思います。どうしても気持ちの整理がつかない、うちの子はそんなんじゃないって言うてしまう気持ちもわかりますが、最終的に子どもの将来で、一生懸命やってるのにうまくいかない、課題が出せない、言われたことを忘れてしまう。やっぱり多様化っていうところで、いろんな子がいて当然なので、その中でも本人の負担が少なく、本人の特性をちゃんと活かして、周りがカバーできている、必要なところに情報共有が出来ている工夫が出来るところの理解が大事だと思います。でもやっぱり指導の先生が足りていないですし、支援の必要な子どもは増えているが、ソーシャルワーカーの数は足りていない。また、支援に当たってくださる先生の待遇はあまり良くないです。

委員 6) 支援システムの中身はものすごく良いのですが、高校まではいいが、卒業後の就労部分の支援がない。

委員 9) 高校卒業後に支援計画を保護者に返すので、保護者が就職先や大学に提出してもらえるような体制を呼びかけているのですが、そこがまだ弱い部分です。

委員 6) その部分です。そこを行政にお願いしたい。

職員 C) 行政が何かするとかってこともありますが、みんなで何が出来るかを話し合いできればいいなど。発達支援システムだけではなく、他の湖南省の強み弱みも含めて発言をお願い

いします。

委員 10) 私は外部の人間で、皆さんの意見や現場の声でよくわかったのですが、私自身はもう全然違うことを考えているので、場違いになるためやめておきます。

委員 6) 各区の民生委員さんがもう少しお手伝いできないのかなと思います。良いところは、いろんなまちでいろんな特産品があります。八丈岩や湖南三山もあり良いところが多いです。うまくミックスさせて湖南省の特産物を 8 つくらい作って、収穫体験に来てもらい、観光して帰ってもらう。それを H A T の中でする、またここびあで特産品を買ってもらう。ただ、何か一つ足りないんです。それがあれば、湖南省に人が集まると思います。農福連携でも、障がい者が就農する場所作りについても湖南省なら出来ると感じています。

職員 C) いま、システムの中の就労も含めて、湖南省らしさ、湖南省にあるものを活かしていけばいいなどの提案をお願いします。また、それに付随していることや、ほかのことも結構です。

委員 8) 今コロナ禍なのもあると思うのですが、ご家族でご飯を食べに行こうとなった時に、患者さんは食べるものがないのでいかなと言われることが多いです。年配の人がレストランで食事が出来るように、薄味や柔らかいメニューがあればいいのにと考えています。また、独居の方に週一回お弁当の配布サービスがありますが、とても喜んでいただいています。お弁当のサービスだけでなく、来た人との会話を楽しみにしておられます。その方の様子もわかるメリットもあります。もっと若い人との交流を持ってほしいと思います。これが湖南省の現状だと思いますし、今の若い人が歳を取るまでに出来ることがまちづくりに繋がると思います。農業の場でも、一緒に作ったものを食べに行ったり、デリバリーできたりすることでつながりが広がるといいと思います。世代間を共有すると多様性に繋がると思います。

委員 9) 若い世代という言い方をされましたが、それに関わっていくのが高校生だと思います。地域が生徒を受け入れ、生徒も学び地域に返すことで地域と若い人との関わりができます。学校はフィールドワークの一環として、アポを自分で取らせたりして勉強になったと聞いていますし、地域から声をかけてもらえると関わるができます。フィールドワークをしたい学校も地域にとってもいいことなので、関わったら楽しいのかなと感じました。探求学習は国がしなさいと言っているので、双方都合がいいのかなと感じました。

職員 C) 委員 10 さん、何かどうですか。

委員 10) 私は「湖南らしさ」、「らしさ」って何かかと考えていて、「らしさ」から見つけていけないといけないと思っています。それを活かすとか以前に、まずは「らしさ」からお話ししようってことです。そこで外部の人に、湖南は子どもと福祉のまちなんだねとか、歴史と伝統のまちなんだねとか何かわかるような、「らしさ」っていうのは、そこをもっと追求していかないと、総合計画見てますと、通り一遍なんで、そのどの部分を外部にアピールして、らしいまちを作っていくか、子どもと福祉のまちっていうのをもう頭にドンと訴えるなら、そこに特化したような施策をまちぐるみでやっていく。そうしないと、湖南省って一体何って聞かれたときに、ほとんどの人がどこにあるかすら知らないと思います。現場の方々のやることと、まちとして外部に発信していくということと、その両方をうまくやっかないと、外からの人をより多く来ていただくための何かコミュニケーションという部分、また、現場の方々がいろいろ抱えている問題を解決する部分と、その両輪がうまく動かないと駄目かなと思います。湖南省では今、現場のいろんな方々に問題点を解決しておられ、他の自治体と比べて、結構頑張っているように見えますが、まちとして何を外に発信していかねるかが必要で、仮に米原市でしたら伊吹山があるでしょう。赤穂市だったら、赤穂浪士がいると。姫路市もお城がある。何か自慢できるものが必要です。それがシビックプライドだと思うので、表に出していくためには、皆さんで自慢ができる。福祉のまちといえるぐらいのまちまでいく。農業でこういうことが連携して、これがもう湖南省なんだという表に自慢していえるようなものが欲しいと思います。そこをもっと行政の方で話し合っって、何か特化して何かを作ろうよっていう動きが、やっぱりいるのかなって思います。たとえば明石市が子育てに特化した事業をしておられます。子育て支援や補助があり、神戸市の子育てしたいお母さんたちが、明石市にどんどん流れてきている状況です。反対される方は必ずいますが、思い切った市の方向性が必要だと思います。

#### 職員 C)

一つの目標に向かって、市民も行政も進んでいけたらいいと思います。

委員 6) 観光＝農福連携と考えています。委員 8 さんの提案もここぴあでできるのではないかと。調理室も研修室もあるので、高齢者に対してここぴあが主でやってくれると面白いと思う。

委員 9) 高校生たちはイオンタウンには行くが、ここぴあやHATのことを知らないと思います。私も以前まで知りませんでしたし、市民の方も知らない人が多いと思います。高校の中でお菓子作り好きな子も多いのでアイデアを求める場をそこで設けたり、絵を描くことが好きな子もいるので何かアイデアを求める場にすれば、必要とされる生徒も嬉しいと思いますし、中高生が立ち寄れる何かあればいいなと思います。

## Cグループ

職員 D) このCグループ、進行させていただきます職員 D と申します。よろしくお願ひします。それでは、議論の最終報告を委員 2 名の方に願ひしたいのですが、どうしますか。委員 15 さんと委員 13 さんにお願ひします。議論のまとめは、意見や個人的な感想でいいのでお願ひします。それでは、始めます。

ここは、まちづくりということ、大きくまちづくりでとらえていますけども、自己紹介聞いてますと、市内の方が 2 名、市外の方が 3 名ということで、年代も幅広いです。まず、湖南省の強みについて、市外から見て湖南省はどういうことに強いのか、また市内から見てどういうところが強いのか、強いところを順番に出していただきたいです。

委員 11) 強みは、すごく人が柔軟だと思います。よく委員 14 さんの取組で、中学生に大人の職業体験するようなことをやりたいことに対して、普通学校ではそんなことやりたくないといってくるのが多いのに、それを受け入れてくれる。みんなの夏祭りも 1 人がやりたいということ、みんなで一緒に取り組んでくれるまちはなかなかないので、そういうところ湖南省さんはすごいな、強みだと思います。

委員 12) 強みは、私の年代から言うと、湖南省の市は甲西町と石部町が合併して一つになりましたが、我々にとってそれがそうだったというよりも、もともと中学校は一つだったわけで、一つにまとまったのがいい面だったと思います。

委員 13) 私の印象としてはやっぱり、さっき人という話が出てきましたけど、〇〇市といったら誰々さんみたいな感じで印象が出てくるんですね。湖南省さんは私の場合、真面目そうなイメージの方がでてくるのですが、始めてお会いした方が多いのですが、委員 14 さんもそうですし、NCL のみなさんもそうですが、地域で楽しんで活動しているお兄さん、お姉さんがいることが同世代としては嬉しいし、この地域で生きていく子たちにとっても生き方をひとつ示すのに大事なかなと思います。それについてもったいないと思うことは、この方々のこの取組に関して、関心をもっている人しかリサーチできないこと。残念なのは、湖南省のホームページを検索しても、この人たちの取組に繋がらないということです。湖南省にも詳しい名物おじさんやお婆さんがいると思うのですが、年配の人と若い人の連携をもっと持てると湖南省の歴史や、昔ながらの知恵や人脈など、若い人の方向性をもっと強くなっていくのではと思います。そこを繋ぐのはもしかしたら行政の仕事かもしれません。お互いに歩み寄る場や機会が提供されれば、もっといいのではと思います。

委員 15) 強みというと、現場が多いことかなと思います。NCL でやられてることもそうですし、それこそいろんな、エネルギーや、多文化共生をやろうとしていることもそうですし、いろんな現場があつて、いろんなSDGs の話をしても机上の空論で、例えば高校生とか大

学生が学ぶときに、その場所に行けば、何かをやっている人がいる。現場があつて、そこに頑張っている人がいるってところに共通する部分、そういうことがあるのは財産だと思います。私はエネルギーと多文化共生は、今後考えたらすごく大事なテーマなので、その現場が二つちゃんとあるっていうのは、湖南省は日本中見てもわりとまれだと思います。そこをうまく活かせればいいなと思います。

委員 14) ここ湖南省ですごくいいなと思うのは、文化がいい意味で「ない」じゃないですか。むかし温泉街だったわけでもありませんし、甲賀市に比べて全然違う地域が合体している場所がないので、何か新しいことをするとき委員 12 さんもですけど、誰もやってはだめとは言わないんですよ。もう「やりやり」、最後責任はとってやるからと言ってくれる格好良い大人が多いので、ものすごくやりやすいです。やりやすいし、コンパクトのまちなので、何かするとき一緒にやろうって言ってくる人がいる。これは文化がないことで、逆に良いという部分です。あと、もう一つは文化があるとして、僕がすごく好きなのところというなら多文化共生で、ブラジル人やペルー人とか、最近っていうとインドネシア人が多いので、その人達ともっと関わられるようなまちができれば特色出せるのにと、個人的に興味がある部分です。

職員 D) 今、皆さんの話を聞いて、湖南省の強みは「ひと」が大きな意味を持っているのかと思います。その中で、活動家や何か新しいことに取り組む人、その地域で頑張ろうとする人が湖南省にはいる。その中で對馬さんのお話にあったように、地域で頑張っている人の活動を市ホームページで情報発信していくことが必要だと感じました。湖南省には、笑顔で元気に頑張って活動している人に、こんなに共有する人たちがいるのだなと、今お話を聞いて感じました。じゃあ、逆に弱みのほうはどうですか。

委員 15) もう結構情報が出ている気がするのですが、現場と現場が繋がってないところがありました。今回まさにプロジェクトでやろうとしていること、そこをどうつなげるかということ。やはり、潜っていけばいいという現場がたくさんあるけど、何かやりたいなと思った時にそこにアプローチするすべが、なかなか見えにくい点もだと思います。あとは、せっかく多文化共生の話を結構しているにも変わらず、そこに人はいたとしても、いろんな国の文化に接続みたいところまで至ってない。もう少し深めることが出来るとよいと思います。

委員 14) 僕はハード的な観光地はもう絶対無理だと思います。それこそ、僕は湖南三山は好きですが湖東三山には勝てないし清水寺には勝てない、仏像では長浜には勝てないし、そこはあえて切り捨てなくても良いが、強化はせずに違う観光目線を作ればよいと思います。

職員 D) 滋賀県は観光の発信がすごく下手だと思います。いい文化財などが、かなり多いですよ。はっきりと京都には勝てないのですから、京都の隣が良いと思います。

委員 14) あと、湖南市は琵琶湖がないので、琵琶湖に関することがなにもできない。

職員 D) 滋賀県は広域でしか観光できないのではと思います。一つの市町だけでは。観光協会、観光で弱みというどうですか。

委員 12) 確かにそれは言えると思います。それを無理して作っていくのが良いのか、伝統的なものは作れと言っても作れない。ですから新しい形を考えていく必要があります。昨年、雛人形めぐりが滋賀県でありました。以前からあったもので、私も視察に行ったことがあります。各市にひな人形めぐりを順次していかないかという案が去年からあり、湖南市も一回やってみようと思いましたが、長浜や近江八幡や、日野町のように同じことができるかという絶対無理です。そうしたら、どういう形でそれを活かしていったらいいかなということ。家庭で使わなくなったひな人形を再利用し、昨年はまち協がメインになって取り組みました。ひな人形に乗せてアピールし観光に来る人が増えることを期待したのですが、特に歴史的な人形があるわけでもなく、結果は期待外れでした。今後、石部宿を活かして新しいものを利用していかないと、市外に負けるし、競争しても意味がないと思いました。

委員 13) 今聞いていて思ったのは、観光について勝ち負けを言われますが、何に対して勝とうと思っているのかと考えてしまいます。京都のように、雰囲気の良い場所で写真を撮って食べ歩きをして、バスに乗って歩いて回れる所があって、人がたくさん来てくれればいいと、地域の方々が思っているのかが問題。湖南市は石造物や、整備されていれば登るには手ごろな山があり、自然体験もしやすい。いわゆる未知の世界で戦っていけばよいと思う。石造物が一番ならそれに対して、どうしたらそれに対してお金を落としてくれるのかを考えることが大切で、まさに現場いっぱいあるけれどもつながっていないところにあります。

委員 11) 先ほどの話しに戻りますが、私も湖南市さんの観光事業は国際交流をメインにしたらいと思います。今、コロナ禍で海外に行きたい思いが高まっている。そんな中で湖南市に来たら海外旅行の疑似体験ができるみたいな形でアピールできればと思っています。例えばブラジル料理が食べれる。今はインスタ映えの情報発信が大切です。背景にブラジルの街並みの絵があり、写真を撮ったりメイク体験するなど。旅行会社のパッケージツアーに組んで、コロナ禍で修学旅行に行けない学生向けに湖南市に来て海外体験しませんかみたいな形でアピールできればいいと思っています。

職員 D) 他に感じた弱みはありますか。

委員 13) そこまで湖南省の中まで詳しくないので、私が気付いていないから弱みになっちゃうかもしれないのですが、だからこそ思うのは、その時にしかできないことをするのは面白いですが、そこに住んでいる人にとってはちょっと違うものとかが面白かったりします。観光についても、県内の市外の人たち、例えば長浜の人たちを観光で呼べるといいと思います。

職員 D) 一通り話を聞いた中で、それぞれが点で事業は成り立っているが、全体は繋がっていない。点では意味がなく、面にしないといけないということ。観光は弱いので、今現在の湖南省の文化財や東海道を活かした取組などありましたが、海外の疑似体験という面白い話が出ましたが、多文化についてどういうことをしていけばよいか提案はありますか。

委員 14) とても興味ある分野で、ブラジル柔術をブラジル人から2年間ぐらい習ってますが、そんな体験なかなかできないです。ただ湖南省にいる99%ぐらいの人はブラジル人に興味がないです。ブラジル人も、お互いに関心がないように思います。ただ強みというか、ここで生まれたブラジルの子はポルトガル語がペラペラなんですよ。市役所もポルトガル語を喋れる人がいるので、住みやすいけど分断が生まれるんです。湖南省の人に湖南省を知ってもらいたいですし、情報発信やっていけば、市外の人に知ってもらうより、市内の海外の人に発信することで滋賀県湖南省のことを知ってもらえるほうがいいと思います。ブラジル人の人でティックトックやインスタグラマーでフォロワー10万20万っていう人がこの地域にいるので、そういう人を利用したらいいと思います。

委員 15) ちなみに、中学生、高校生の子ども達は海外の人と交わる機会はないのですか。

委員 14) 学区によっては1クラスに10人程度いますが、まったくいない学区もあり、地域によって違います。

委員 15) 私の地元では、クラスに必ず数人外国籍の子がいて、その国の料理が給食に出たりします。最近、図書館が近くにでき併設するカフェで、その地域に住んでいる人が日替わりで国の料理を作りに来ます。いろんなケースで一緒に暮らしているところがスタンダードな中学生、高校生が大きくなると、本当にいろんな舞台で活躍できると思いますし、だからそういうスタンダードが、すでにグローバルみたいな形が生まれてくる市っていうのは、観光にすぐに結びつかなくても、すごく意味があると思います。

職員 D) 今の意見の追加で、何かありますか。

委員 12) いろんな人がいるので、やっぱりいろんな興味を持ってる人がいる。わたしは今ひとつは山城ということで、三雲城址は国指定や県指定じゃなくて、格で言うと高いところではない。長浜の小谷城とか比べると全然格下ですけど、情報発信していると興味を持った人が集まってくる。

委員長) 議論も進んでいると思うんですが、このあたりで次のステージに議論を移していただいて、こういった意見を、今グループを作っていただいておりますが、それぞれのグループでの、意見としてまとめていただけるんだらうかということで、15分ほどまた時間をとりたいと思いますので、皆さんの方で、湖南らしさを活かした各分野での提案について、少し話を移していただけますでしょうか。  
よろしく願いいたします。

委員 12) 全国の色々な興味をもっている方に情報発信して、湖南省に來たいと思う人が来てくれればいい。

職員 D) 市外の人に向けた情報発信はいくつか話ができましたが、逆に市内に住んでいる人が湖南省を知らないと思います。市内の人に湖南省をもっと知ってもらう良い方法をまとめの中に入れていたのですがこの件について、なにか提案はありますか。

委員 15) 湖南省に住んでる方は湖南省のことをどう思っているのですか。湖南省が好きな人が多いのですか。そうでもないのですか。

委員 14) 先日、市内の小学3年生の子たちと話す機会があったのですがみんな手を挙げて「好き」と言っていました。

委員 15) なぜ、どんなところが好きなんですか。

委員 12) 小学生に確認したら、みんな好きって言ってきてましたね。生活するには便利なところだと思うのですが。七五三でも地域のお宮さんではなく大きなお宮さんでしてしまう。その辺は諦めてしまうほうがいいのか・・・

職員 D) 市内の人から見たら、湖南省で頑張ってる活躍している人が見えてないのではと感じます。湖南省で頑張ってくれている人が地域や市民と繋がっていないからだと感じました。



委員 13) 湖南省で、いろんな人を知っている人はいますか？この人に聞けば分かるっていう人です。だいたい何人ぐらいおられますか。そういうネットワークがある方がいると、そういう人に口コミを入れてもらえます。

職員 D) やはりつながりがいて、つないでもらうってことなのでしょう。委員 11 さんは地元のことを好きですか。

委員 11) 生まれ育ったから好きですが、何があるからということわけではないです。

委員 13) 私の地元は、同級生はいません。地域での夏祭りやクリスマス会もありませんし、もちろん地域とのつながりはありませんでした。だからこそ、地域とのつながりがある環境での生活にあこがれます。

委員 14) 湖南省が好きな大人をもっと増やしたらいいと思います。このまちいいよって言う大人が多いと素敵だと思います。

委員 13) 人に声をかける時は、笑顔で声をかけることで回りも増えていくことがまちづくりに繋がると思います。大人の姿を幼い子どもたちは見ていると思います。

委員 15) 関係人口ってすごく大事で、自分もよく他地域に行くことが多いのですが、また行きたいなと思うところは、地元が好きな人たちが集まっているところで、また地元のことを教えてくれる人が多い、そんなまちです。

委員 11) 今までを思い返していたのですが、たとえば年に 1 回、地域が一丸となって出来る祭りなどがあれば自分のまちが好きだなと思いますし、面白いと思います。市外からも戻ってくる人もいます。

## ■発表

それでは発表お願いをします。

時間の関係で、手短にぜひお願いをしたいということと、グループのまとめというよりは、それぞれお感じになったことをご発言いただければいいかと思います。では最初に、経済・産業に関するグループの方からお二方発言をお願いいたします。

### Aグループ 委員 1

東海道が強みでもあり、弱みでもあり、なかなか難しいと思うところが多くありまして、

東海道をどうすればいいか分からない状態ではありますが、お金をかけて街並みをきれいにして観光で収益を得るのではなく、住んでいる住民が誇りを持てるようになると、住民も増え、湖南省を知ってもらえるようになる形になると思うので、街並みの整備の方にも、少し力を入れていただきたいと思います。

#### Aグループ 委員5

キーワードに湖南三山が何度か出てきました。湖南省には湖南三山がありますが、そのあとどこに行ったらいいか分からないという意見が出ていて、私自身は湖南省に限定せずに、近隣の市と合わせた観光で、一緒に遊びに来ませんかという企画で考えた方がいいのかなと思います。

#### Bグループ 委員6

湖南省の強みというのは、やはり過去日本一になった発達支援システムがある福祉のまちです。内容は1番ですが、実行性が欠けています。内容を充実させるために何かできないか話し合いをしまして、考えられるのは福祉に対して中学生、高校生の興味があまりない。湖南省の良さを伝えるにも、大人が分かっていない。今後は発達システムを有効に機能させながら、湖南省の特産品と農福連携を連携していけば面白いと思います。

#### Bグループ 委員9

湖南省らしさとは一体に何か？を考えていて、米原なら伊吹山があるよとか姫路ならお城があるよとかあるのですが、湖南省は何があるか考えていて、何もないなと思ったので、皆で話し合っただけになるもの探し出して、そして市民は何ができるか、行政がどう発信していくかを考えればいいのかないかなと感じました。授業の一環として高校側が乗り込み、小学生、中学生に繋がったり、そして卒業したら大学生を巻き込んでいくと、若者と大人が関われる良いまちになるのではないかなと思います。

#### Cグループ 委員13

湖南省の特徴は、それぞれの現場で、すごく力のある方、個性がある方はそういう人たちがいるけれども、それがうまく繋がっていないところ。文化的な多文化共生の土地になっていること、湖南省はすごいところで、すごい楽しいところだなっていうふうに思いました。ただ、観光関連で言うと、すごくいいものもあるけれども、ニッチな部分もあって、それぞれの現場がちゃんとあって、それぞれ力のある人たちがいるのであれば、今後はみんなが繋がっていくきっかけづくりをしていくことが大事かなと思います。

あとは、意識的に一人一人が市民の方々に発信するっていうところで言うと、やっぱり口コミと会話が一番強いと思います。誰にでもできる口コミという情報発信があると思います。観光の情報発信の仕方について、固い感じではなくてせつかくかわいいキャラクターと

か、何か漫画をとかの何か事業もあるみたいなので、そういうところをどんどん使っていつて、その人たちにとって入りやすい言葉を、発信していくといいのかなというふうに思います。

あとは多国籍というところと言うと、これって湖南省の地元のためになるのかっていうことを思うかもしれないんですけど、その人たちのことを知るっていうことも、逆に言えばその人たちは、湖南省のことをこれから知っている存在なのであればやっぱりこちら側も、他国から来た人たちのことを知っていく場所を知ったり、交流するっていうことがすごく大事になってくるんじゃないかなというふうに思います。

#### C グループ 委員 15

僕からは二つあって、一つ目が、どこ出身ですかと聞くと滋賀県出身ですではなく、湖南省出身ですと言ってくる人が増えるといいなって思いました。

もう一つは、市外の発信もすごく大事だと思うんですけど、一番大事なの、市内の人が、湖南省面白いよ、湖南省好きだよって言うことじゃないかと思うので、湖南省が好きだよって言う大人が増えるから結局一番大事なんじゃないかなと思います。外から見ると、市内がすごく楽しそうに盛り上がるとまた行きたいと思うし、もう1回行きたいと思う場所のその人に会いたいためなので、自分のまちが好きだよっていう、って言って発信していただくことと、あとは自分のまちが好きだよっていうのを、大人が言い続けてここに尽きるんじゃないかと思いました。

委員長) いろいろ議論させていただきましたけど、意見の方、まとめをちょっとここでしてると時間がなくなりますので最後の方に移りたいと思います。では、第三部のところに移していきたいと思います。みなさんの方から、一斉にご発言をいただくという形で運営をさせていただきたいと思っております。みらい公園湖南について、議題を進めていきたいと思っております。では、担当課農林振興課の方から、説明をしていただければと思いますよろしく願いいたします。

農林振興課) 別紙のとおりここぴあ、HATについて説明

#### ■意見交換 (全体)

委員6) 何とかJAさんの方にも、申し上げたんですが提案を聞いていただけなくて大変残念に思っています。そういうことから言うと、ここぴあ、HAT、体験農園と3つあるんですけど、一つは一体化すべきじゃないかなと思います。一体化の中に行政、商工会、一般とか、なんかその辺の中で、いい案を出してもらってやらないと、どうも1社にすると思惑通りになってしまいます。要は、湖南省の物産ばかり入れたら、数が少ないから、いつもガラガラですが、ものは置くところはない。こんな回答が返ってきます。置くところがあれば作

る。だがそういうのは努力しない。だからどうしてるのかというと他県からの人が作ったものが入っている。こんな状況です。商売だから仕方がないが、それなら儲けるようにもっと人を入れたらどうだと聞くと、なかなか入れられない。そんなことがあるので、どう行政がかむのか分かりませんがその辺が一つ考えるところだと思います。

もう一つは交通が不便です。HATにどうして入るの、入ったらどうして出るの。まだここぴあはマシなんですけど、HATなんか入ったらもう出るのいやになりますよ。最近HATでイベントやってますけどね、イベント後出るのに半時間かかります。何とかしないといけないと思います。これも前からお願いしてますけど、大変難しい問題だと思います。

もう一つは、子どもから学生が集まれるような場所にする、子どもが来るとおじいちゃん来る。そうすればお金を落としますので、だからその辺のベースを、行政が考えて欲しいなということ思っていました。

委員 10) 実は姫路市の仕事をしてる一環で、姫路市から山のほうに、1時間ちょっと行った限界集落のところ、農家レストランをやっているんですけど、廃園になった保育所を利用して、地元の野菜とハーブを栽培されて、健康と美容をテーマとして、バイキング形式の味もかなりおいしい、京阪神からそこを目的に女性客や家族がやってくる。もしよければ、一度そこを見にきていただければどうか。薬草は体に良いし、高齢化に伴い今後薬草に注目していこうと思っています。そういうセミナーを月に数回開催していますし、山奥でもお客さんが来る理由が何か、HATで展開を考えるにあたって役に立つのではと思いましたのでご紹介します。視察に食べにきていただければと思います。

委員長)

ここぴあHATの話は、ある意味で言えば、どこのまちでも起こりうるような事業の展開の仕方になっている。指定管理っていうのも、市の思いや市民の思いがそこに反映する仕組みなのかというと、そういうものでもない。じゃあオーナーの力を発揮できるかということ、公的施設ですから簡単ではない、意外と難しいんですね。その意味では今いただいた意見を踏まえて、地元のものを使ってますプラス1つ切り口がないと、近隣のところとは競争できるような状況にはまだないかもしれませんので、レストランも含めて、もう一つテーマ性を何か作る必要があるだろうと思います。それが先ほど皆さんで議論していた湖南市の発信だとか、あるいは世代をつないだり、多文化共生のような形で、湖南らしさというのが未来に向かって、作られていくような、あそこが交流拠点になるような、そういうきっかけだとか、いろいろ考えていく必要があるだろうと聞いて思いました。

最後に、総合政策部の方から、政策評価パッケージの評価資料が添付されております。この政策パッケージシートにつきましては、ご意見記入シートもごございます。今日、言えなかったご意見なども含めまして、8月13日までにこの評価パッケージシートに対するご意見も、記入シートで提出をお願いいたします。

今日皆さんこの場に出していただいた意見というのは、ここで取りまとめて結論を出すというようなそういう形の議論を運んでおりませんので、担当課の方で持ち帰っていただいて、整理していただいて、いろんところで反映をさせていただくようにしますし、先ほど紹介いただきました評価パッケージと並びに、今日皆さんに、配ります意見の確認シート、そういったものを使っていただきながら、そんな意見や提案が出てきますよと紹介をいただいて、市民の皆さんの検討の材料に使っていただきたいと。

最後にやはりこの湖南省総合計画の後期基本計画についての話で、私が印象深かったのは、やはり皆さん自分の体験と、今の湖南省がいろいろやろうとしていること、どう交錯するのかなという、そういう視点でのお話がほとんどだったような気がします。そういう意味で、湖南省の皆さんが、なんか外から見て注文をつけるような言い方であったりだとか、或いは誰かがやってくれるだろうというような意味で、主語がないような活動の提案をされるような、そういう話じゃないというのが非常に印象的でした。ただ同時にそういう方向で、今度、この事業を進めていくとなれば、それはその骨の折れる部分もやっぱり抱え込むことになるというのは、私ども覚悟しつつ、今日の議論を市の皆さんや市民の皆さんにお伝えしていく必要があるなっていうことを強く感じました。

ただ、幸いにして湖南省を取り巻く状況は、他のいくつかの滋賀県の市町村或いは滋賀県外の市町村に比べると若干穏やかな部分がありますので、そういう状況がまだあるうちに、いろんなことにチャレンジをして未来につなげていければなというのを強く感じました。どうも今日は本当に皆さん、委員の皆さん長時間にわたりましてご議論いただきまして、ありがとうございました。

事務局)

長時間にわたり、貴重なご意見をいただきました。

このそれぞれのグループでいただいたご意見につきましても、事務局の方でしっかりと整理をさせていただきます。また追加のご意見を何度も申し上げますが、ご意見の記入シートに、いただきましたら、8月13日までという期限は切らせていただきますが、その意見も踏まえまして、きっちりと整理をさせていただきたいと思っております。これにつきましては、この様式でも結構ですし、また任意の様式でも結構ですので、またメールでもいただくことが可能でございますのでよろしくお願いいたします。本日のこういった議事内容またご意見につきましては、委員さんのお名前を伏せた状態で、ホームページ等で公開させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それではこれもちまして、令和3年度、湖南省まち・ひと・しごと戦略茶話会閉会をいたします。本日はお忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございました。